

に郷土に花を咲かせている。当時は毎夏「京都セミナー」が学者向けにあり、僕は京都に呼ばれてアメリカ研究で気炎を吐いていた。今回のシンポジウムはその成果ともいえる面がある。

語る人

地元政界より

すぎもとかずや

杉本憲也

浪漫学会より

はまのせいしゅう

濱野成秋

伊東市はまた

第2回 シンポジウム

「教育特区」

でも光らせたい

伊東市は東京近郊の大温泉ホテルの密集地だけれども、市民は教育熱心。

だが現代のようにテクノロジーが国際的に拮抗してくると、幼少時から才能開発を光らせねば子等が第一線で敗北する。

また親孝行教育がしっかりしていなければ、郷里を愛し、郷里の為に役立つ人間がいなくなり、街は過疎化する。

杉本さんは伊東出身で京都の立命館大学の学生だったが立派

100点主義で固める時代はもう時代遅れだ

濱野 ここへ来る時バスの中

で立ったまま猛勉強している高校生に遭った。手にしているのは「英検準1級問題集」で、一心不乱。僕は思わず彼に言った、君はかつての僕だ。寸暇を惜しんで猛勉強。僕は後にニューヨーク州立大の教授となり、英語で講義するまでになったよ、その調子で頑張りなさい、とね」

杉本 先生の時代は激烈な受

験戦争のさ中でしたね。蛍雪時代というか：何でも百点主義で。

濱野 「四当五落」といって、

一日に4時間寝てれば合格、5時間なら落ちる。だから残りの時間は飯を食う時間も風呂に入る時間も惜しんで猛勉強だった。

杉本 一日十時間は勉強したですかね？

濱野 いや、15時間はやっ
たよ。

杉本 東大、狙ってたわけ？

濱野 いや、慶應だけれど、英文学科は文学部に入ってからまた実力試験があつて結局全受験生8500人中65番以内に入らならなきゃ、他学科で我慢しろと、追いやられる方式だった。

杉本 そのやりかたはひどい。

濱野 ひどい、たしかに。だから僕らが卒業してから大分経ってから改善されて英文学科の志願者は全部抱え込んでる。

杉本 でもやっぱり強烈な受験戦争があつたからこそ、日本が「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われるまでになった。

濱野 当初はね、だけど順次

周りの諸国がハイテク中心の技術教育を幼少時から始めたお陰で、ソニーのダイオードもシャープの有機画面も過渡期の火花で終わった感がある。残念だけど、それは日本の幼児教育と関係がある：

杉本 人口減少？

濱野 それだけじゃない。僕自身がアメリカで教えていて判ったことだけど、日本の幼少時の教科書の知識量が少なすぎたから負けたんだ。

**幼少教育は易し過ぎては
世界中から取り残される**

杉本 アメリカの小中学校の学習量は日本の倍ぐらい？

濱野 50倍ぐらいなんだ。

知識量が土台、桁違いに多い。

杉本 知識量ね。日本じゃ可哀そうだから少しにして「ゆとり教育」を推奨してずうっと、その調子で来たわけだけれど。それがいけなかったのかな。

濱野 100点主義で98点取れば東大、95点なら京大、

90点なら東北大：というよう
なガチガチの少量完璧主義がま
ずかった。

杉本 少しの知識だけを範囲
内にして、満点取ったと褒めた
り、クラストップは平均点95
点だとか：

濱野 アメリカでは学習量を5
000点ぐらに拡大して、満点
でなくても、3500点とか、4
000点取ったら、ハーバード
やプリンストンに行ける。日本
も知識量を幼少時に増やしたい
子には、どしどし沢山学んでい
い方式に転換すべきなのです。



情操教育にぴったりの伊東市

杉本 なるほど。領域によつ
て、伸びる子にはたとえ10歳
でも17歳の高3ぐらいの量を
学ばせる。好きで覚えるんだか
ら、負荷に思わないしね。

濱野 「負荷」に感じる子には

与えない。「負荷」ではなしに、
楽しみにする子には高度な技術
を小学校低学年から教えて行っ
て夢中にさせる。生成AIなん
か、大人の硬い頭では到底無理
でも、幼稚園の子にはどどん
やれる。頭脳の生理学によって、
無理でなく、面白い刺激剤のよ
うに学問を高度化して与えるこ
とで、世界的に太刀打ちできる
才能を沢山増やす。

杉本 それを差別扱いでするか
ら、低いレベルに合わせる。逆差
別なのに、日本では公平だという。

濱野 差別じゃなく、向き不向
きでやる。ITよりグルメが好き
な子には「栄養学」の手ほどきを
してやって、美味しいオートクイ
ジーン（高級料理）を教えて、一
流のシェフに育てればいい。

杉本 国語なんか、どうなっ
ちゃうのかな？

濱野 もちろん和歌や俳句や
漱石を読むことが好きな子には、
小学生から「百人一首」だの、業
平、近松、シェイクスピアなど読

ましてもいい。小学生に解かるわけはないとするのが画一教育で、歌謡づくり、作曲など、幼い頃からやらせれば、大いに伸びる。

セミナー制の導入が最適

杉本 小学校でゼミを採用すると、確かに個人的に飛躍する人材がどしどし生まれる。

濱野 週に二度ないし三度、ゼミ授業がある。どれも楽しい。たとえば、

ITプログラミング これは日本の未来産業を牽引する人材発掘コース。小3レベルで大人と一緒に開発することも可能。

農業工学 穀物育成、野菜、果物の工場栽培と付設機材の活用法を学ぶ。

ホテル・マネジメント 将来ホテル経営やマネージメントの修得を実地面で修得。

メディア・コース TV関係中心に報道実務を習得し自分たちでも番組をつくる。

パワーコース これは受験専科で、開成中高生なみの「早期熟

成教育」高一で大体東大、京大合格レベルの知識量。

グルメ・コース 日本女子大の家政学部のお家芸で、日本料理、板前修業、フランス料理、中国料理、イタリア料理などの実習で、ケーキを作る実習も。多分、一番人気のコース。

芸能歌謡コース 作詩作曲からプロデューサーの仕事まで。コンサート実施のポイントまで学べる。

杉本 スタッフ不足で、小中の先生方には無理をしいることになる。

濱野 (うなずいて)おっしゃるとおりです。いずれもプロの指導者にも頼まねばならないし、料理など、火を使い、熱い油にも気を付けなければならぬから、無難策が好きな校長先生なら踏み出さないコースもある。

杉本 ほかに、英語弁論部、百人一首競技部、スポーツ関係も沢山やりたい、野球部、サッカー部、バレー部、水泳部…

濱野 杉本さん、あなた、ほん

とに、調和が取れてる。知育、徳育、体育の3原則は日本の教育理念の根本だからね。そうでなくっちゃ立派な幼少期教育は成り立たないさ。(笑了)